



発行

SenS

‐縁‐側でつながる人の‐縁‐

発行日

2012年3月22日

SenS 2011

‐縁‐側でつながる人の‐縁‐

SenS プロジェクトの発足と活動内容



下石寺集落は荒神山の湖岸寄りに位置し、滋賀県立大学からは自転車で20分の距離にあります。集落全体が環濠に囲まれており、現在も伝統的な農村の暮らし方が継承されています。

集落が管理している空き家「エコ民家3号館母屋部分」を「誰でも気軽に立ち寄れるコミュニティスペース」に改修することで、集落の方同士、また集落の方と学生の交流の場を生み出します。



SenSの活動の軸は地域と「仲良くなる」ことです。そのため集落の行事に積極的に参加したり、「下石寺町づくり委員会」との協働でイベントの企画・開催などを行ったりしています。



SenS member

丹羽 亮太 高口 美夏 水井 歩 山田 聖
野間 比呂心 長瀬 理恵 佐藤 佑樹 (TA)





完成したエコ民家 3 号館を利用して、子どもたちと楽しめるイベント「凧揚げワークショップ」を開催しました。模造紙と竹ひごを使って凧を作り、集落内の草の根広場で飛ばしました。

集落の大人の方は道具の用意やお手本の凧を作るなど前日から準備に関わってくれました。当日、集落の方や SenS メンバーが手伝いながら立派な凧がたくさんできあがりしました。お昼には「たこ」つながりでたこ焼きパーティーをしたあと、いよいよ草の根広場へ…。この日、下石寺の空では子供たちがおもいおもいの絵を描いた凧が、いくつも空を駆け回っていました。



凧揚げ ワークショップ

2010/12/28

下石寺まちあるき・オープンハウス

エコ民家 3 号館の改修を集落の方々に周知する機会として、また、学生達が下石寺集落のことをもっと知ろう、集落の方々と仲良くなろうという目的で、下石寺集落内のエコ民家 1 号館・3 号館にて交流会を行いました。まちあるきと改修予定のエコ民家 3 号館の見学（オープンハウス）、子ども達も招いての DVD 鑑賞会、バーベキューの 4 つのプログラムで実施しました。

まちあるきでは下石寺集落の中を見て歩き、集落の歴史や地理などを学びました。下石寺に来るのが初めての学生たちは集落内の様子を興味深く観察していました。私は何度も下石寺に訪問していましたが、新しく知ることが多く、新鮮な驚きもありました。下石寺の集落内の路地は網目状になっている部分と、魚の骨のように、広い道と細い道が組み合わさっている部分の 2 種類があるということや、下石寺はもともと沼の中にある集落で、舟を使って移動をしていたということを新たに知ることができました。その名残として、集落内にある倉の壁には、舟板が使われていました。こうした情報をクイズ形式で出題し、まちあるきを楽しんでもらいながら下石寺の特徴や歴史について知識を深めてもらいました。



まちあるきのあとは、スクリーンとスピーカーが設置してあり、DVD を大勢で鑑賞できるエコ民家 1 号館の 2 階で映画鑑賞を行いました。集落の子どもたちは夏休み中だったのでたくさん遊びに来てくれました。

夕方からは集落の人々や子供たちと一緒にバーベキューをしました。集落の人たちから、木炭やシカ肉、煮物などの差し入れがありました。バーベキューを食べながら、集落の人や子ども達と集落のことや、エコ民家のことについて話をしました。集落の人の話で、県立大学の学生の活動に協力的で、理解していただいているという印象を強く感じました。

今回のイベントで、下石寺やエコ民家のことについて多くの人に知ってもらえることが出来ました。協力いただいている集落の人たちに感謝の気持ちを感じるとともに、県立大学の学生と下石寺集落の関係をより深めることができたイベントになったと思いました。(丹羽)

太鼓登山

2011/4/17



毎年四月、荒神山の中腹にある稲村神社に巨大な太鼓を納め、五穀豊穡を祈る太鼓登山の歴史は、明治から始まったと言われています。直径一・八メートル、重さ一トンもある大太鼓を担いで斜面を登ります。



お昼は集落の方々と一緒に、集落のご婦人方がつくってくださった昼食をいただきました。年齢の差を越えて、多くの人が一つのご飯を囲み、手作りのご飯をいただく。集落のコミュニティという大きな「家族」を感じる瞬間でした。昼食後には集落の方しか叩けない大太鼓を特別に叩かせていただきました。(野間)

古民家再生・活用フォーラム

2011/11/19

エコ民家3号館の改修ワークショップが終了し、改修の報告会を兼ねた古民家再生・活用フォーラムを行いました。ゲストとして「どっぽ村」で地域の伝統的な木工技術の継承とその担い手育成を実践されている第一人者、清水陽介さんにお越しいただき、基調講演として地域再生やものづくりのお話をいただきました。



また、基調講演の後には他の近江楽座で活躍している古民家再生・活用の学生チームである「とよさと快蔵プロジェクト」と「おとくら」の方々にも参加していただき、私たち「SenS」含め、各プロジェクトにおける実践例の報告が行われました。最後には清水さんも交え、古民家再生・活用に関するディスカッションが行われました。

今回この企画を通じ、古民家という地方が持つ地域資源の重要性に改めて気付かされました。学生や外部の人間が連携し、古民家の価値を評価し、積極的に活用していくことが重要であり、この外部を巻き込んだ動きをきっかけとして地域の方々とともに地域活性が推進されるのだと思います。(佐藤)



エコ民家 3 号館は、半分はすでに改修され、学生のシェアハウスとして利用されています。SenS の活動では、今は使われていない母屋部分を改修しました。6 月に実測を行い、改修前の図面におこし、8 月には下石寺の皆さんにアンケートを取り、改修後のエコ民家 3 号館に何を求めるのかを調査しながら、改修案を練っていきました。夏の間には建築士の方も交え、何度も話し合いをしながら設計作業を行い、集落の方へのプレゼンテーションを行いました。



エコ民家 3 号館改修ワークショップ

2011/10/8,9,10



古民家よさを伝えつつ、下石寺に住む方々が気軽に立ち寄り自由に利用できる場所を作りたい。そういった思いから、私たちは「掘りごたつ」「縁側」「広い土間」の 3 つの提案を元に図面を描いていきました。

こうしてできた図面を元に、まずは事前準備としてメンバーで解体作業、掘りごたつのための基礎コンクリート打ちを行いました。



そしていよいよ、SenS 最大のイベントである改修ワークショップを行いました。現場にはメンバーと住民の方々、NPO 法人 環人ネットの建築士の方々、他大学の学生など 20 名ほどが集まりました。役割を分担してそれぞれの作業を行います。経験や年代も幅広い人たちが集まり、声を掛け合って共同作業をしていく中で、作業をした

ションが生まれ、和気あいあいとした雰囲気の中で作業に取り組みました。

そして長いようで短かった 3 日間が終わりその後も残りの改修を続け、11 月 19 日には完成したエコ民家で打ち上げを行いました。掘りごたつは年長者に人気で、すぐに席が埋まってしまいました。地域の方々に使っていただいで、喜んでいただけたことが、うれしかったです。(長瀬)





ひこにゃん田んぼアート

田植え準備 5/22,23 田植え 5/29 稲刈り 10/1

ひこにゃん田んぼアートは彦根市市制 75 周年記念事業の一環として、100m×150m の大きさの田んぼをキャンパスに見立て「ひこにゃん」を描き出すイベントです。市役所の方を中心に石寺の皆さんと NPO 法人環人ネットと JA、県大生が協力して開催し、稲刈り時には一般の参加者を含めて総勢 300 人ほどが集まって作業が行われました。

田植え準備では環人ネットの方と協力して測量とポールたて、テープ張りを行い、田植えでは 5 種類の苗の種付けを行います。植え付け時点では絵柄がわかりませんが、苗の成長とともに次第に姿を現します。荒神山からは全体像を見ることができ、次第に色を変え行く様子は多くのメディアに取り上げられました。

10 月の稲刈りでは気持ち良いくらい晴れ、稲刈り・ハサ掛け・脱穀と日常ではなかなか経験できないような作業を実践することができました。また、稲刈りと同時に、地元の方々の協力によってクラフト体験や地元名産品の販売、ハングライダー試乗体験などイベントや出店が行われました。今回のひこにゃん田んぼアートというイベントに参加することで、様々な世代と交流でき、楽しみながら地域の人と関わり、昔ながらの生活に触れるという貴重な経験を実践する、大変良い機会になりました。(高口)



ゆりかご水田

2011/7/3

下石寺の環濠の外には田んぼが広がっており、その田んぼの一部でゆりかご水田を実施しています。ゆりかご水田では、鮎鮎の材料であるニゴロブナの稚魚を放し、2 cm ほどまで成長させます。下石寺ではこのゆりかご水田を利用したイベントを毎年、初夏の恒例行事として開催しています。



集落の方は子供から大人まで多くの方が積極的に参加し、地域の行事を大事にしていることが伺えます。県大生も参加し、集落の方と県大生の交流の機会とさせていただきました。

子供たちは慣れない田んぼでの作業に悪戦苦闘し、中には田んぼの中に長靴をとられてしまう子も出てきますが、みんな泥だらけになりながら一生懸命ニゴロブナの稚魚を捕まえていました。

そして集めたニゴロブナの稚魚を琵琶湖につながっている近くの水路に放流します。田んぼで育ったニゴロブナの稚魚は琵琶湖で大きく育ち、また鮎鮎の材料として下石寺の台所、食卓へ戻ってきます。

ゆりかご水田は地域の資源を守り、地域の環境を継承するだけでなく、地域の活性化や子供たちの環境教育にも貢献しています。また子供から大人まで世代を超えた交流と地域と学生との交流など様々な接点を生み出すきっかけにもなります。(水井)

